

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

201

2020 July

今、必要な学びとは？

今、必要な学びとは？

2 学長からの
皆様へのメッセージ

3 卒業生から後輩たちへ
今伝えたい言葉

小説家 門井慶喜さん(1994年文学部卒業)
東京2020パラリンピック アーチェリー内定選手
岡崎愛子さん(2008年商学部卒業)



4 各学部・研究科からの
学びのメッセージ

9 図書館サービスの
一部再開にあたって



10 INFORMATION 本学教員の執筆図書紹介

11 データでみる同大生の2019年度就職状況

13 2019年度 大学決算について / 2020年度 大学予算について

15 VISION 2025

表紙の情景 [今出川キャンパス ムクノキ]

西門からクラーク記念館に至るパーパスロードの中央に、行く手を遮るようにそびえたつムクノキ。樹齢150年を超えるこの巨木は、創立以来この場所で学生たちを見守ってきました。現在、コロナ禍によりキャンパスには学生の姿はありません。きっと、このムクノキも早くキャンパスに学生が戻ってほしいと願っていることでしょう。

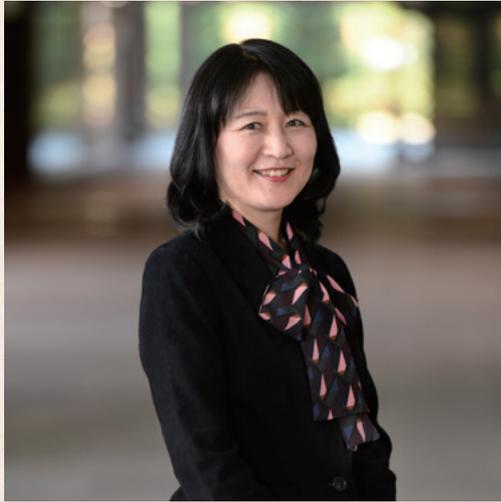


お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。
同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

学長からの

皆様へのメッセージ



2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の恐怖と不安の中に始まりました。政府の緊急事態宣言と京都府の要請を受け、本学でもキャンパスの入構制限および春学期授業の原則ネット配信の措置を取らざるを得ない状況となりました。学生の皆さんにはご負担をおかけし、ご父母の皆様にもご心配をおかけしております。

学生の皆さんが想定していた形での授業ができていないことについては心苦しい限りですが、このような状況の今だからこそ、私は皆さんに多くの本を読み、学び続けてほしいと思っています。私たちがまさに直面している不確実で予測困難な世界を生きていくためには過去の経験と先人たちの知を活かした新たな発想が必要です。書物にはその知が集積されているからです。

中世の随筆文学として著名な『徒然草』に、「ひとり灯のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる」という一節があります。兼好法師は、ただ一人、明かりのもとで書物を広げて、会ったことのない過去の人を友とすることこそ、この上なく心慰められることだ、と言っています。個人の経験や思考には限界がありますが、私たちは書物を通して、過去の人と対話することができるのです。時空を越えた幅広い他者との対話が思考のトレーニングとなって、私たちは想像力、判断力、表現力を身につけることができます。



最近、新聞の投書欄で読んで心に残った小学校二年生の女の子の投書をご紹介します。休校中、家で過ごす女の子は、頭の中でお話を作るという新しい遊びを考えました。一から作るのは難しいので、前に読んだお話の登場人物になりきるといのです。この間は「やかまし村」シリーズのリーサになり、ホットケーキにのってスウェーデンの空を飛んでみた、といいます。頭の中のことなので、すぐに冒険に出かけられるところがいい、ゲームより楽しいと書いています。

「やかまし村」シリーズとは、スウェーデンのリンダグレンの児童文学で、私も夢中になって読んだ記憶があります。投書から、この女の子の想像力・創造力は読書によって養われていることがよくわかります。読書に導かれて、想像する・創造する世界は無数の可能性を持っているのだということ、改めて強く思った次第です。

困難な状況の中ではありますが、皆さんもどうぞ学びの時を持ち続けてください。学生の皆さんが学び続けるために、教職員一同は最大限の努力をしてみたいです。大学が知の共同体としてあり続けるために、皆さんのご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

同志社大学学長
植木 朝子





世の中は恐れるに 足りない

小説家
門井 慶喜

失敗を恐れるな、どんなことにも挑戦しろと偉そうに言う大人がじつはいちばん臆病だったことが今回のコロナ騒動で判明しました。

いや、ほんとうを言うと、太古のむかしから臆病だったのです。人間そのものには何の変わりもない。ただ今回はそれがネット空間の発達はじめ、いろいろな要因であざやかに可視化されただけでした。野心ある若い人には、この社会がいかに隙だらけかが見えたでしょう。

自分で情報を得る努力をし、自分の頭でものを考えれば、みなさんの割って入る余地はいくらでもある。大人など恐れるに足りないのです。ただし後者はともかく、前者の「情報」ということに関しては少し技術がいるでしょう。ネットやテレビで得られ

るそれらのほとんどが上っ面のものにすぎないことは、ふだんの生活で、みなさんも実感しているはずですが、そもそもなぜ上っ面なのか。

タダだからです。この社会ではほんとうに大事な情報は無料ではない、というより、どんなに優れた情報でも無料になったら万人が知る。あまねく世の中にいきわたる。そうなってしまったら中身はどうあろうとも、あなたの武器にはならないのです。

ということは、あなたはさしあたり「他人が知らない」その一点にこだわればいい。まずネットでは「有料」の二文字に注目すること。つぎはネットの世界をいったん離れ、有料の情報センターに足を運ぶこと。これが役に立つはずです。

この情報センターは、ふつう「本屋」と呼ばれています。お金には限りがある。いちいち買う必要はありません。たっぷり時間をかけて情報選別（いわゆる「立ち読み」）をおこなったあげく、一冊をレジに持って行くときにはもう、みなさんはいっぱしの情報強者です。嘘だと思うなら試してごらん。今回のコロナ騒動では、最初から、たとえば公衆衛生に関する良質な情報はそこにごろごろしていました。

卒業生から後輩たちへ

今伝えたい言葉

Message for you



東京 2020 パラリンピック
アーチェリー内定選手
岡崎 愛子

この原稿を書いているのは、新型コロナウイルス感染拡大によって発令された緊急事態宣言が解除された5月末です。この先の世の中がどのようなになっているかは私も予想できませんが、決して楽観的な日々ではないことは想像に難くありません。

進学や就職を控え、これから社会に出ていく学生さんにとっては、不安は大きいのではないのでしょうか。

皆さんとは立場は違いますが、私もこの先の不安と戦っています。というのも、私は、今年8月の東京パラリンピックにアーチェリー競技で出場内定しておりましたが、ご存じの通り、それが来年に延期され、現在、目標を再設定して自宅トレーニングに

励んでいるからです。パラリンピックの開催時期が1年延期になるというのは、自分の練習スケジュールの他に、スポンサー等関係各所と再調整が必要ですし、モチベーションの維持も大変です。スポーツにおける1年は長いです。ワクチンの開発が間に合わなければ、東京オリンピックパラリンピック中止の可能性も聞こえてきています。先が見えないと、今の自分の心の持ちようが難しいですよ。

しかし、パラリンピックに挑戦すると決めたのは自分ですし、応援・協力してくれている家族や友人の存在があります。変えようのない物事をマイナスに捉えていても仕方がないので、今の状況で自分にできることを無理せず積み重ねる気持ちで日々過ごしています。

単純に比較は出来ないことはわかっていますが、学生の皆さんも、焦らず今の自分に出来ることをコツコツと積み上げていってください。それがいつの日か、皆さんの大きな財産になると思います。ともに未来の自分の実現に向けて歩いていきましょう。



各学部・研究科からの 学びのメッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大により、外出自粛を余儀なくされ、不安な日々を過ごしている在学生のみなさんへ、同志社大学の学部・研究科の教員から「学びのメッセージ」をいただきました。

神学部



小原 克博【神学部教授】

三〇数年ぶりに、アルベール・カミュ / 著 宮崎嶺雄 / 訳『ペスト』（新潮文庫刊）を再読しました。学生時代、最初に読んだときも、カミュの文学的技巧と、それを支える思想の深さに圧倒された記憶がありますが、アルジェリアのオランという都市がペスト拡大に伴って封鎖されるという物語そのものは、どこか遠い世界での出来事のように思えました。それゆえ、『ペスト』を、この世の不条理や、人の苦難や死の隠喩（メタファー）として読んでいたのですが、この時期に再読する中で、同じ小説がまったく違うリアリティをもって迫ってくることに驚きを禁じ得ませんでした。

このような変化を受けとめるためにも、私たちは生涯を通じて学び続ける必要があります。学ぶことによって、自分の考えを明確にし、安定させることができます。しかし同時に、学びは自分の考えを安定させないためにもあります。若い方々には、旧来のものの見方にとらわれることなく、変化する状況、危機的状況にも対応できる知的な柔軟性と大胆さを持って欲しいと願っています。



文学部



新 茂之【文学部教授】

新型コロナウイルス感染症の影響が続いています。このようなときであるからこそ、校祖新島襄の、つぎのことはを噛みしめたいと思っています。「我が良心を真理に照準して使用し、天より賦与するところの力をつくして一生を終わらんと欲するのみ」。新島は、全身全霊を教育という大事業に捧げ、力の許すかぎり、その実現に向かって走りぬけました。

その学び舎に集うわたくしたちは、ほかのひとのことを非難したり否定したり責めたてたりするのではなく、真理を希求し、みずからの限られた力でなにができるのか、それをみずからに問わなければならないのではないのでしょうか。

わたくし自身、はじめてのオンライン授業の試みとして、講義ビデオを使ったオンデマンド授業と、Zoomを用いたリアルタイム授業とに、日々、格闘しています。

こうしたなかであって、夏目漱石の講演を収録した夏目漱石 / 著『私の個人主義』（講談社学術文庫）は、わたくしたちのありかたにたいして、一つの示唆を与えてくれるかもしれません。



社会学部



マーサ・メンゼンディーク Martha MENSENDIEK 【社会学部准教授】

～今だからこそ～

今私たちは大変な「時」を生きています。「普通の生活」に戻りたいという思いは自然な気もちですが、今までの「普通」の弊害もあったのは確かなので、「普通」に戻るのはもったいなく、新しい可能性を見つけてよりよい社会をつくる機会を与えられていると思います。様々な制約があり、大学で対面授業も許されない中ですが、視点を変えれば、このような困難な時期に大学生であることの可能性というものもあるはずです。今、社会の脆弱な部分をはっきりと現れています。貧富の差、孤立、差別や偏見も表面化しています。今こそ孤立になりがちな人、差別されて傷ついている人、職を失って困窮生活にある人たちとの連帯、つまり、他者が直面する問題を自分ごととして向き合うことが必要です。命を守るために、人との繋がりを絶やさず、希望を紡ぐために何が必要なのでしょう？この時だからこそ見えること、感じることを大切にしましょう。そして、一人一人が大切にされ、支え合う社会を共に創造していく「時」なのではないのでしょうか？

法学部



林 貴美【法学部教授】

大学教員となって今年の春で21年目となりますが、今春のような波乱の幕開けとなったことは初めてのように思います。おそらく皆さんにとってもそうであったでしょう。様々な情報や新たな授業スタイルへの対処に右往左往された方も少なくないでしょう。慌ただしい日常の中、新たなことに挑むのはなかなか容易ではありません。しかし、それに取り組むことで思わぬ成果を得られることもあります。私の場合、今回の授業のオンライン化のために学んだ新たな教育ツールが、受講生との距離を縮め、対面講義における双方向性の実現にも資することを発見できたことは、ITに疎い私にとって予期せぬ賜物となりました。

社会が変化を余儀なくされている今、皆さんはどのように過ごしていますか。学ぶ楽しさを、そして知的渴望を感じていますか。願わくは、挑戦することを躊躇せず、求めることを諦めず、豊かな想像力を駆使して毎日を過ごしておられますように！

経済学部



大野 隆【経済学部教授】

今年度はオンライン授業に伴い、レポートの書き方を知ることがとても重要になりました。レポートの書き方の動画も用意しましたので、ぜひ習得しましょう。

次に、この期間に、経済学という幅の広い学問領域から、興味を持てるテーマを探してください。講義だけではなく、本を読み、人の話も参考にしましょう。私の好きな言葉の一つは、「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう」というアインシュタインの言葉です。好きこそものの上手なれというように、経済学の中から、興味があるテーマを深く学ぶことを通じて、課題発見力、論理力、伝える力といったスキルを向上させましょう。そのためにも、まずは自身の興味あるテーマを知ることが重要です。

もし、見つけられないという人は、私が担当しているエコノミクス・ワークショップで、過去の自分を振り返り見つけるワークをしていますので、受講してみてください！

戸山和久/著『**新版 論文の教室 レポートから卒論まで**』（NHKブックス）



商学部



上田 雅弘【商学部教授】

この時期だから考えて欲しいことー生きがいについてー

感染症の拡大を防止する対策として発せられた「自粛」や「要請」という言葉のもとに、私たちは思いもよらず自分と社会を見つめ直す機会を得ることになりました。新しい生活様式が求められる中で、私たちが心から取り戻したいと願ったのは、様々なコンフリクトに直面しながらも、人と心を通い合わせて生きる「日常」にほかなりません。失われた「日常」にこそ本来の「生きがい」があることを発見できたのではないのでしょうか。

「生きがい」とは必ずしも歓喜のうちに現れるとは限らず、時に悲痛をとまぬ経験によって、その深みを知ることができます。新しい世界の扉を開ける鍵は孤独な時間の内にありますが、自分の理想を実現するだけの利己的存在にとどまらず、他者の悲哀に共感できる利他的存在となり、理想の自分になろうとする社会的存在としての姿勢で探求するものです。

新たな社会の到来はSociety5.0と語られていますが、これはヒトやモノが様々なかたちで「つながる」、知識集約型社会への転換を意味します。この時期だからこそ、次世代を生き抜く多様な「つながり」と「生きがい」について考えてみませんか。

政策学部



風間 規男【政策学部教授】

政策学部では、直接現地に行き関係者と交流しながら学びを深めていくアクティブラーニングを重視しています。現在、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、フィールドワークを実施することができない状況に置かれていますが、教員と学生は、限られた条件の中で、学びを実現するアプローチはないかと知恵を絞っています。たとえば、私のゼミでは途上国に足を運び、現地の子どもたちをサポートする活動を展開してきましたが、学生たちは、ZOOMを活用し、現地に赴く以上の効果をあげる新機軸のプロジェクトに取り組み始めています。

厳しい状況は、変革のチャンスでもあります。こういう状況だからこそ、時代を切り拓くアイデアが創造されていきます。皆さんは、ポストコロナの時代に向い、新しいパラダイム、新しい思想が生まれる瞬間に立ち会っているのです。大学で知性と感性を磨き、卒業後は変革の最前線に立って活躍して欲しいと思います。

文化情報
学部

下嶋 篤【文化情報学部教授】

新型コロナ感染禍にあつて、皆さんは、私の想像の及ばないものも含め、様々な問題に突き当たっていると思います。そういうときには、本を読んで、ひととき自分の現状とは違うところに意識を集中させてみませんか。そうすることで、現状に対する見方や態度が改まったりすることがあります。いわゆる「ビブリオセラピー (bibliotherapy)」はこういった効果を狙ったものなので、皆さんに、次の一冊をお勧めします。

トルストイ 中村白葉 / 翻訳『トルストイ民話集 人はなんで生きるか 他四編』(岩波文庫) トル

ストイは一九世紀のロシアの大文豪ですが、この本では民話調の平易な表現で五つの物語を語っています。「民話なんて子どもが読むもの」みたいに思うかもしれませんが、この本の物語は大人の心の中にも静かに分け入って来ます。私も、今回皆さんに紹介するために読み直したところ、心がまた刷新されました。一時のセラピーの効果だけではなく、自分のこれからの生き方を考えるよすがになるかもしれません。ぜひ、じっくり味わいながら読んでみて下さい。岩波文庫版以外も出版されています。



理工学部



高橋 和彦【理工学部教授】

理工学部・理工学研究科では、社会人としての基礎力に加え、高度な外国語運用能力とグローバルマインド（グローバルな視野、異文化理解、多様性の尊重）を身につけた「真のグローバルマインドを持った国際人の養成」を目指し、日本人学生と外国人留学生在が主体となり協働で企画・立案・運営するPBL型の共修プログラムを2018年度から実施しており、ALL DOSHISHA 教育推進プログラムのひとつに選定されています。プロジェクトは、学生主導型と課題設定型に大別され、日本人学生と外国人留学生それぞれが抱える様々な課題や潜在的魅力を発掘し、解決・改善していきます。これまでに、派遣留学生向け情報発信プロジェクト、外国人留学生向けに日本の伝統文化や最先端技術に焦点を当てたプロジェクト等が遂行され、日本人学生と外国人留学生によりよい共修環境の構築が試みられています。詳細は、理工学部・ISTC WEBサイトで日英2言語で公開しており、多くの学生が本プログラムに興味を持ち、参加していただけることを期待しています。

生命医科学
学部

横川 隆一【生命医科学部教授】

私たちは、数えきれないほどの細胞からの情報を適切に選択して、生きています。たまにウイルスの侵入で混乱しますが、最大の防御手段は自身の細胞のもつ免疫ということです。からだの健康も、学びも、最後は、自分次第ということです。未来の自分を思い描き、その未来の自分に近づけるように一歩ずつ進むべきでしょう。社会もテレワークが進み、これまで以上にインターネットを通して、情報があふれていますが、玉石混淆です。情報の渦の中で溺れかかっていますか。迷ったら、今の状況をデータやこれまでの経験（自分の経験以外、社会の歴史も含まれる）に基づいて、客観的に捉えてください。なぜ、そのような発言をしているのか。そのように考えるのか。情報の発信者のもつ背景も考えるべきです。なぜ？と自問すること。あるいは、自分の考えに対して反対の意見を問うことで、客観的に捉えることもできます。状況を客観的に捉え、そして論理的に考えてください。湿度も高く、暑い季節でのマスク生活になりそうです。体調管理にはくれぐれもご注意ください。

スポーツ
健康科学部

中村 康雄【スポーツ健康科学部教授】

スポーツ健康科学部では、2019年度からALL DOSHISHA 教育推進プログラムの事業として、“「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラムの開発とその強化”を実施しています。この事業の開始にあたって、スポーツ系の学科や専攻をもつ京都府立の高等学校6校と提携しました。これらの高校では、スポーツを専攻する生徒さんが学びの集大成として卒業研究を実施しています。この卒業研究をサポートするため、高校生向けの卒業研究ガイドブックを作成しました。本年度は、このガイドブックを用いて、本学の教員が出張講義を行う予定です。将来的には、スポーツ健康科学部の学生さんを主体として、高等学校の生徒さんも参加できる問題解決型の学習法の構築を目指しています。また、昨今の状況により、3密を避けて、学生さんと生徒さんが共に安全に学べる環境の構築も合わせて検討しています。しばらくは学びの速度が遅くなる可能性が高いですが、学ぶことを止めなければ、少しずつでも先に進めると考えています。

心理学部



及川 昌典【心理学部教授】

感染症の拡大防止への対策がもう数ヶ月続いています。暮らしはいつ戻るのでしょうか？見通しの立たない不安な状況であるからこそ、心の働きに注目しましょう。通常の活動が制限されていることで、普段は見過ごしていた心の動きや、人間関係の重要性が見えてくるかも知れません。たとえば、3密を避けるソーシャル・ディスタンス（social distancing）は、感染症予防には効果的ですが、社会的な動物である私たち人間にとって、孤独のストレスは相当なものです。普段は意識することのなかった社会システムの恩恵や、人との接触が制限されることで生じる心の変化を、感じている人も多いかも知れません。このような時期には、**ロバート・B.チャルディーニ/著 社会行動研究会/訳『影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか』（誠信書房）**などを参考にして、人と人をつなぐ心の仕組みの重要性や、小さな心境の変化の大きな影響力について、主体的に学んでください。この貴重な体験による気づきは、今後の大学生活を支える、強力な武器になるはずです。



グローバル・コミュニケーション学部



窪田 光男【グローバル・コミュニケーション学部教授】

パンデミックは、社会のグローバル化を前提とし、コミュニケーション能力の育成を目指して留学を必修としている我々の学部で学び方の再検討を迫りました。留学の継続を断念し帰国する学生、留学先の授業を現地あるいは帰国してオンラインで受講するという現実、新年度開始に入国できない留学生。足元に次々と押し寄せる事態に対応する怒涛の数ヶ月を過ごし、ふと頭を持ち上げた時、学びの世界が大きく転回していく様を見ました。学生たちは、もがきながらも、しなやかな感性で、新しい学びに適応しようとしています。様々な形態のコミュニケーションを経験しながら、これからのコミュニケーションのあり方を意識的に考える姿勢が芽生えています。そして、これら学びの再構成の原動力となっているのは、他でもなく地道に積み上げて来た語学の訓練や、多様な他者理解の上に共生を模索し、自己を発信するためのこれまでの学びです。この先に、ポスト・コロナのグローバル・コミュニケーション構築のリーダーが育つことを確信しています。

グローバル地域文化学部



遠藤 徹【グローバル地域文化学部教授】

「ピンチは、やっぱりチャンスなのかもしれません」
ちょっと想像してみてください。あなたが植物だったとしたらって。
この人間の世界でいま植物は、品種改良を繰り返される作物として、あるいは観賞用に都市の定められた場所に植えられる装飾として、あるいは「地球の肺」と形容される酸素の生産者としてしか存在を認められていません。この世界は徹頭徹尾人間中心にできていて、植物はそれに奉仕する限りでしか存在を許されていないということです。
動物だってそうでしょう？ 基本、家畜か？ペットか？です。あくまで、人間の従属物なのです。
コロナはこれに激しく異を唱えたのではないのでしょうか？ この世界はあなたたちだけのものではないですよ、ってことを教えようとしてくれる、そう考えてみるのはどうでしょう。コロナのおかげで人間の経済は停滞しているけど、中国の空はかつてなく澄み、動物たちが人間のいなくなった場所に降りてきているのですから（街にカラスが増えていますよね）。
もしかしたら、いまこそ人間中心ではない、真に共生的な世界観について考え始めるチャンスなのかもしれません。

グローバル・スタディーズ研究科



富山 一郎【グローバル・スタディーズ研究科教授】

知において重要なことは、答えよりも問いであり、問いをしっかりと描き出すことです。知の営みとは、自ら住まう世界に、答えがすぐさま見つかからない問いをつきつけることであり、この問いを前にして世界も自分も、これから何が起きるのかわからないという不安定さを抱え込むことになります。そして希望は、この何が起きるかわからないという地点に踏みとどまりながら、何かをなさんと動き出す瞬間に、閃光のごとく浮かびあがります。多くの死とともに様々な痛みがぎわだち始めたいま大切なのは、未来をあたかも決定されているかの如く語ることで、うわべの安心に流されながら歩調を合わせることでなく、先が見えない暗がりにとどまりながら眼を凝らし、そこに浮かび上がるおぼろげな世界を、私たちのかけがえない未来として、いいかえれば希望として、確保することなのです。知とは、うわべの未来予測や自己保身でしかない安心感のためにあるのではなく、この希望のためにこそあります。ある出来事を、**石牟礼道子/著『苦海浄土(わが水俣病)』（講談社文庫）**。それは希望でもあるでしょう。



Message for you

脳科学
研究科

塚越 一彦【脳科学研究科長・理工学部教授】

今、世界は、新型コロナウイルス感染症 (Covid 19) 禍の下にあります。しかし、いずれパンデミックはおさまり、その後には、社会構造や人々の価値観の変化も含め、大きな変革の時代が到来すると言われています。このような中であっても、大学が担う教育、研究、社会貢献の責務は変わりません。

同志社大学は、人文、社会、自然科学を含む14学部、16研究科からなる総合大学です。ポストコロナの新しい社会はどうあるべきか、自由と平等は維持できるのか、必要とされる技術の開発は可能なのでしょうか。ポストコロナに向けて、何を提言し、何を成すべきか。本学は、これらの問いに対して、学生の皆さんとともに学び、そして多彩なる研究活動を通じて、何がしかの対応を示していくべきだと思います。

皆さんの日々の学びの中に、そして研究活動の中にこそ、ポストコロナの新しい社会構造や価値観が芽吹いていくものと思っています。それらが、物事をより多角的に捉え、集約し、価値ある方向性を含む内容として、将来、皆さんの内に大きく育ち、そして皆さんの外に広く情報発信されていくことを願っています。

司法
研究科

佐久間 毅【司法研究科教授】

今朝、仕事に出るため靴下を履こうとしたときに、ぎっくり腰になりました。4日後が締切りの原稿があるのに、研究室に行くどころか、座ることすらままならない状態になりました。やむを得ず編集者に連絡し、締切りを少し延ばしてもらいました。その後、妻に勧められた本 ヤマザキマリ/著『国境のない生き方-私をつくった本と旅-』(小学館新書) を読みました。痛みを我慢して横になっているほかに一日でしたが、案外悪くない日だったと感じています。明日もどんな日になるか、分かりません。良くも悪くも分からないからこそ、飽きることなく生きていけるのだと思います。



天才・凡才、努力家・怠け者、善人・悪人、面白い人・つまらない人、好ましい人・疎ましい人、様々な人と様々な形で自由に交わることで、自分というものを考え、自分づくりができる場であることにこそ、大学の真価はあると思っています。そのため、4月からの状況がとて残念です。学生の皆さんが自分づくりのために同志社大学の真価を存分に活かせる日々が早く戻ることを願っています。

ビジネス
研究科

飯塚 まり【ビジネス研究科教授】

教育は本来、個人や社会が「幸せ」になるためのものではないか。米国の著名な教育哲学者ノディングズは、あらためて現代の教育全般に対し、そのような根本的な問いかけをしました。

ビジネス研究科とWell-being研究センターは、コロナ禍中(5~6月)に働き方についての調査を行い、現時点で2000名の企業人から回答を得た結果、人々はテレワークとダイバーシティの進む社会を予想し、「コロナ後に、よりよい社会を築きたい」と強く思っていることがわかりました。今後は、あらゆる面で「ウェルビーイング」(幸福や健康、個人と組織や社会を含む)への動きが加速しそうです。

では、幸せな働き方とは? そのための大学教育とは?

神経科学等のサイエンスからも、ウェルビーイングのためには、感謝、親切、「志」など、良心教育の同志社、そして京都(日本)の文化が大切になってきたことが、注目されています。また、テレワーク社会では、新たな形のコミュニケーションや人間関係構築力も重要になってきます。ビジネス研究科やWell-being研究センターでは、先のような調査研究をもとに、「就活で成功するためのコミュニケーションセミナー」、「ウェルビーイングとコーチング入門(複合領域科目)」、「学生向け感染予防行動応援アプリ」などを通じて、ウェルビーイングの観点から、「幸せ」に役立つ教育を提供し、大学全体に貢献したいと思っています。

The
Institute
for the
Liberal ArtsGregory POOLE
【Professor, ILA】

Dear students, fellow learners,
The global pandemic has forced us to change our daily lives, and this includes how we engage as a university and as an ILA community. In addition to the stress of being anxious about our own health and those of our loved ones, we have the additional challenge of adapting to this new learning environment.

At the same time, perhaps this pandemic may thankfully force us to reconsider our most important values, remind us of what it is we most cherish in this life, and also educate us in new and more effective ways to teach, learn, and communicate—to “read the world” (Paulo Freire, 1996, *Letters to Cristina: Reflections on My Life and Work*, London: Routledge). Let us embrace this brave new world with an open mind and positive heart!

As we so embrace and think about the process and protocol of online teaching this semester, at the ILA we are exploring both “asynchronous” and “synchronous” forms of remote learning. Towards this end, we are focused on the following:

1. Flexibility: We will be combining both “asynchronous” and “synchronous” styles of communication during this semester to best suit the needs of every student in a flexible way.
2. Participation: As with our classroom-based learning style, we will strive to make the class as collaborative as possible. Participation will be mandatory. This participation will not always be at the same time and the same place as other classmates, however, full participation is vital for the success of our classes!
3. Community: For this semester to be a satisfactory experience for each and every one of us, we must all be patient, supportive, and responsible. This is, of course, true when learning together on campus, but now it is even more important in this new, virtual environment. Please engage and help each other; use the power of the platform to communicate and interact even more than in a face-to-face setting.

Be vigilant, be safe, and be happy,

G. Poole

図書館サービスの 一部再開にあたって



図書館長 谷村 智輝

4月13日から臨時休館していた両校地図書館は、5月25日から開館し、一定の制限のもとで、貸出・複写・閲覧と段階的にサービスを再開しています。利用者の皆さんにはご不便をおかけしますが、是非、ご活用下さい。

さて、学生の皆さんは、対面授業・課外活動が停止されるとともに、アルバイトも困難になり、自宅での自粛生活を余儀なくされていることでしょう。豊富な時間をどう活用すべきか、戸惑いもあるでしょう。**國分功一郎/著『暇と退屈の倫理学 増補新版』(太田出版)**は、「暇のなかでどう生きるべきか」を考える助けになります。そもそも、コロナ禍は、私たちがもの考える大きな契機となりました。というのも、「ものを考えるとは、既存の習慣が破壊される過程と切り離せない」

(340頁) ためです。さらに、本書を読み進めていくなかで、読書の意味についても重要なヒントが得られるに違いありません。

さて、本書は、現代の消費社会と「退屈」の関係を考察しています。消費社会は、大量生産・大量消費にかわって登場した「フレキシブルな生産」に特徴づけられています。このような生産の転換を論じたのが、**M. J. ピオリ・C. F. セーブル/著 山之内靖ほか/訳『第二の産業分水嶺』(ちくま学芸文庫)**です。この本は、1970年代以降の資本主義の危機を、「大量生産」と「柔軟な専門化」との間の技術選択の問題として把握しています(書名にある「産業分水嶺」は、「技術的發展がいかなる経路をとるかを決定する短い瞬間」(17頁)を指します)。この本が出版されたのは1984年、日本の企業体制が、「柔軟な専門化」の代表として高く評価された時代であり、日本経済の現状をふまえ疑問も少なくありません。それでも、①どのような技術が選択されるかは、技術それ自身の

性格に内在して決まるのではなく、市場構造、富の分配のあり方、行政や政治、これら社会状況による、②私たちの様々な行動が、長期的な経済制度の有様を決める、③社会経済に外的な危機(ウイルスもそのひとつでしょう)は、社会的問題を増幅したり顕在化させたりする、④技術の世代間継承における地域コミュニティの重要性の指摘などから、私たちが為すべきことや注意すべきことを学べる点に本書の古典としての魅力があります。

さて、今後、図書館にも新しい変化が予想されます。まず、遠隔サービスの可能性がひらかれました。電子書籍のプレゼンスは大きくなるでしょう。さらに、社会的距離の保持等へのニーズは暫く継続するでしょう。根本的なことは、今後の利用者が皆さんのように「コロナ禍の体験者」だということです。図書館サービスが元に戻る日が必ず来ます。それは、単なる復帰ではなく、新しい出発になるでしょう。よい出発となるよう、図書館として準備したいと思います。



國分功一郎
『暇と退屈の倫理学(増補新版)』
(太田出版 2015)



M. J. ピオリ・C. F. セーブル
『山之内靖、永易浩、菅山あつみ訳』
『第二の産業分水嶺』
(ちくま学芸文庫、2016)

図書館オンラインサービス

24時間使える!

返却不要!

自宅から閲覧できる!

図書館では、オンライン上で利用可能な電子資料をたくさん提供しています。その多くは、VPN接続をした状態で自宅のパソコンやスマホからアクセスをすることで閲覧可能です。是非、電子資料を活用して自宅学習にお役立てください。

利用できる資料

- **電子ブック・電子ジャーナル**
普段読むような、学習や研究用の本・雑誌が電子になったもの
- **データベース**
本・雑誌・論文・新聞記事・判例・企業情報などを検索できるページ
※一部図書館カウンターでしか利用できないものもあります(有料)

利用方法

図書館 HP トップ: <https://library.doshisha.ac.jp/>



図書館HPトップから「データベース検索ポータル」へアクセスして、目的の電子資料を検索してご利用ください。

閲覧できる資料例

【辞書・事典】JapanKnowledge Lib
【新聞記事】朝日新聞記事データベース聞蔵II
【雑誌・記事論文】PressReader
【電子書籍ほか】Maruzen eBookLibrary など



本学教員の執筆図書紹介

(価格は税別)

国境を越える

ラテンアメリカの女性たち

松久玲子 編 松久玲子 柴田修子
宇佐見耕一 他 著
晃洋書房 2,500円

中日近代文学における留学生表象

林麗婷 著 日中言語文化出版社 2,000円

源氏物語といけばな

岩坪健 著 平凡社 1,000円

民法入門ノート

野々村和喜 他 著 法律文化社 3,200円

地域福祉政策論

新川達郎 他 編著 永田祐 他 著
学文社 2,300円欧州の教育・雇用制度と
若者のキャリア形成

藤本昌代 他 編著 白桃書房 4,364円

無機固体化学

加藤将樹 他 著 内田老鶴園 3,800円

実証の国際法学の継承

坂元茂樹 他 編著 新井京 村田晃嗣 他 著
信山社 23,000円プリンストン大学で
文学/政治を語る

立林良一 訳 河出書房新社 3,000円

全国データ SDGsと日本

峯陽一 他 著 明石書店 3,000円

はじめてのファシリテーション

佐野淳也 他 著 昭和堂 2,400円

47都道府県・民話百科

廣田收 他 著 丸善出版 3,800円

民事訴訟法概説 第3版

川嶋四郎 著 弘文堂 4,200円

赤バラの街ランカスター便り

臼井雅美 著
PHPエディターズ・グループ 1,300円社会系教科教育学研究の
ブレイクスルー

金子邦秀 他 著 風間書房 3,800円

アメリカの刑事判例 2

洲見光男 他 著 成文堂 4,500円

ビートルズ・ポターの謎を解く

臼井雅美 著 英宝社 2,000円

倒産手続の課題と期待

中西正 他 著 商事法務 10,000円

ドイツ法入門 改訂第9版

Hans Peter MARUTSCHKE 他 著
有斐閣 2,700円

文化情報学事典

金明哲 阪田真己子 他 編著
劉雪琴 孫昊 中村康雄 波多野賢治 原尚幸
鄭躍軍 矢野環 吉野諒三 他 著
勉誠出版 18,000円

AI事典 第3版

廣安知之 日和悟 他 著
近代科学社 9,000円

会社法判例40!

船津浩司 他 著 有斐閣 1,800円

ラテンアメリカの連帯経済

宇佐見耕一 他 著 上智大学出版 2,500円

漢学という視座

植木朝子 他 著 戎光祥出版 2,800円

だれが日韓「対立」をつくったのか

板垣竜太 他 著 大月書店 1,400円

「一帯一路」時代のASEAN

浅野亮 他 著 明石書店 2,800円

「国家総動員」の時代

森靖夫 著 名古屋大学出版会 5,400円

功利とデモクラシー

戒能通弘 他 訳
慶應義塾大学出版会 15,000円

構造主義の数理

落合仁司 著 ミネルヴァ書房 2,400円

線形代数学 第3版

溝畑潔 多久和英樹 浦部治一郎 他 著
学術図書出版社 2,000円

現代地政学事典

秋林こずえ 大矢根聡 岡野八代 内藤正典
二村太郎 他 著
丸善出版 24,000円

国際社会と日本仏教

小原克博 他 著 丸善出版 2,500円

日系カナダ人の移動と運動

和泉真澄 著 小鳥遊書房 3,400円

ヒッピー世代の先覚者たち

白川恵子 藤井光 他 著
小鳥遊書房 2,800円

交通経済

青木真美 他 訳 成山堂書店 3,400円

資産の管理・運用・承継と
信託に関する研究

佐久間毅 他 著 トラスト未来フォーラム

デジタル写真論

清水稜 著 東京大学出版会 4,900円

いかにアメリカ海兵隊は、
最強となったのか

阿部亮子 著 作品社 2,700円

憲法論点教室 第2版

尾形健 他 編著 松本哲治 他 著
日本評論社 2,200円

国際関係理論と日本外交史

大矢根聡 編 大矢根聡 他 著
勁草書房 5,000円

一神教世界の中のユダヤ教

勝又悦子 他 編著 リトン 5,000円

認知言語学 I

崎田智子 他 著 ひつじ書房 4,200円

国際的会計基準論

稲見亨 著 森山書店 3,000円

社会福祉学習双書 2020 第1巻
社会福祉概論I改訂第11版埋橋孝文 他 編著
全国社会福祉協議会 2,400円社会福祉学習双書 2020 第8巻
地域福祉論 改訂第11版

永田祐 他 著 全国社会福祉協議会 2,400円

判例プラクティス刑法 I
総論 第2版川崎友巳 十河太朗 他 著
信山社出版 4,000円

家事労働の国際社会学

森千香子 他 著 人文書院 6,300円

日本のイスラームとクルアーン

四戸潤弥 他 著 晃洋書房 2,500円

コンパクト学習条約集 第3版

新井京 他 編 信山社 1,200円

法思想史

浅野有紀 他 著 有斐閣 2,300円

よくわかるアメリカ文化史

白川恵子 他 著 ミネルヴァ書房 2,500円

憲法判例50! 第2版

尾形健 他 著 有斐閣 1,800円

共生社会創造における
ソーシャルワークの役割永田祐 野村裕美 他 著
ミネルヴァ書房 3,500円

金融と社会

野間敏克 著
放送大学教育振興会 3,000円

ベーシック経済法 第5版

瀬領真悟 他 著 有斐閣 2,100円

東アジア優位産業

太田原準 中道一心 他 著
中央経済社 3,400円

企業経営のエスノグラフィ

藤本昌代 他 著 東方出版 6,500円

Beyond the Gender Gap in Japan

Gill STEEL 編集
Michigan University PressThe Psychology of Political
Communicators: How Politicians,
Culture, and the Media Construct
and Shape Public DiscourseOfer FELDMAN 他 編集
Routledge

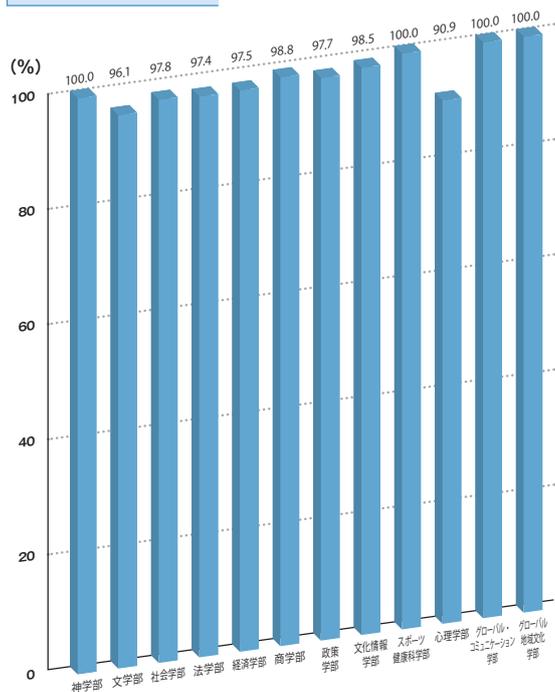
データでみる 同大生の 2019年度就職状況

2019年度は、前年度に引き続き、高い水準の大卒求人倍率であったことを受け、就職率は98.2%となりました。その一方で、社会のニーズが多様化する中、企業は、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を構築する能力、問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果を上げることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。また、社会の動向に目を向けると、新型コロナウイルス拡大の影響による世界的な経済状況の悪化により、就職環境が急激に厳しくなることが懸念されています。このような状況の中で、皆さん自身が納得できるキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に励むなど、充実した大学生活を送り、**インターンシップ(注1)**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することで卒業後の進路をしっかりと考えていくことが大切です。

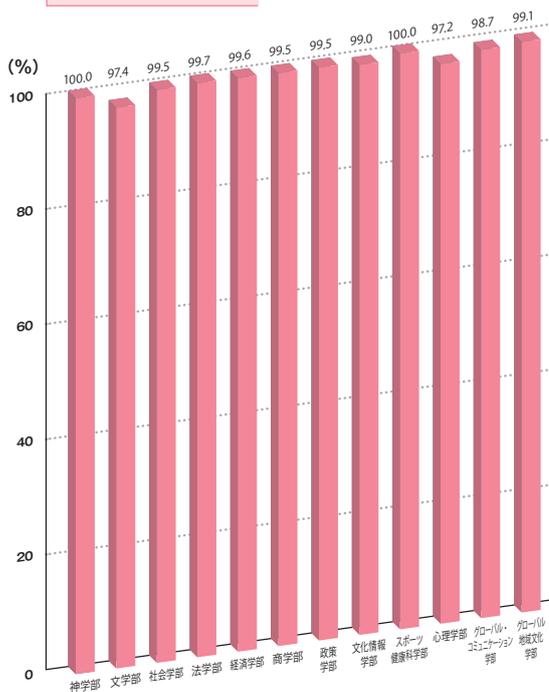
■ 就職率

就職率 = $\frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$

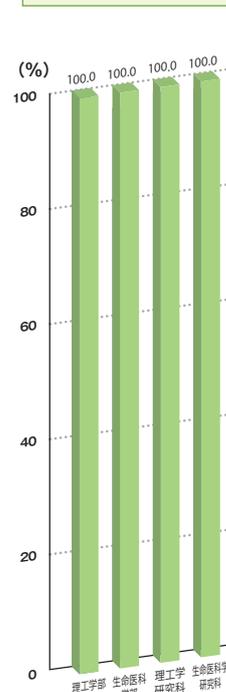
文科系学部／男子



文科系学部／女子



理工系学部・研究科



■ 主な就職先と人数

会社名と人数

文科系

国家公務員(一般職)	52	富士通株式会社	14
日本生命保険相互会社	38	日本郵便株式会社	14
住友生命保険相互会社	28	株式会社キーエンス	13
西日本電信電話株式会社	28	SMBC日興証券株式会社	13
みずほフィナンシャルグループ	28	三井住友海上火災保険株式会社	13
株式会社京都銀行	27	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	12
株式会社三井住友銀行	27	株式会社NTTドコモ	12
明治安田生命保険相互会社	27	京都府	12
三井住友信託銀行株式会社	26	TIS株式会社	12
日本航空株式会社	24	第一生命保険株式会社	12
京都市	23	関西みらいフィナンシャルグループ	11
株式会社ニトリ	23	大和ハウス工業株式会社	11
国税専門官	21	日本電気株式会社	11
株式会社滋賀銀行	20	野村證券株式会社	11
パナソニック株式会社	20	株式会社村田製作所	11
楽天株式会社	20	大阪府	10
全日本空輸株式会社	19	日本アイ・ピー・エム株式会社	10
東京海上日動火災保険株式会社	19	ニッセイ情報テクノロジー株式会社	10
京セラ株式会社	17	株式会社ネオキャリア	10
京都中央信用金庫	17	みずほ証券株式会社	10
株式会社三菱UFJ銀行	17	日本通運株式会社	9
りそなグループ	17	株式会社福岡銀行	9
株式会社日本政策金融公庫	16	三井不動産リアルティ株式会社	9
株式会社リクルート	16	三菱UFJ信託銀行株式会社	9
裁判所職員(一般職・裁判所事務官)	15		

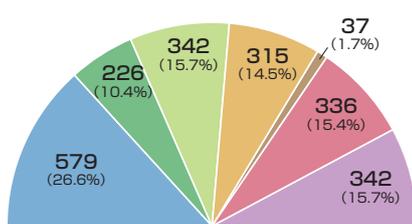
理工系

パナソニック株式会社	24	キヤノン株式会社	5
ダイキン工業株式会社	17	シスメックス株式会社	5
株式会社村田製作所	16	スズキ株式会社	5
京セラ株式会社	13	積水化学工業株式会社	5
川崎重工業株式会社	10	ソフトバンク株式会社	5
トヨタ自動車株式会社	10	TIS株式会社	5
西日本電信電話株式会社	10	帝人株式会社	5
三菱自動車工業株式会社	10	日本アイ・ピー・エム株式会社	5
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	9	株式会社日立製作所	5
株式会社デンソー	9	株式会社メイテック	5
株式会社野村総合研究所	9	アイシン精機株式会社	4
本田技研工業株式会社	9	オリンパス株式会社	4
株式会社LIXIL	8	株式会社きんでん	4
日本電気株式会社	8	株式会社オプテージ	4
富士通株式会社	8	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	4
三菱電機株式会社	8	住友ゴム工業株式会社	4
株式会社クボタ	7	Sky株式会社	4
株式会社小松製作所	7	セイコーエプソン株式会社	4
マツダ株式会社	7	トヨタ車体株式会社	4
株式会社NTTドコモ	6	ダイハツ工業株式会社	4
株式会社島津製作所	6	日東電工株式会社	4
TOTO株式会社	6	西日本旅客鉄道株式会社	4
株式会社豊田自動織機	6	三菱ケミカル株式会社	4
キヤノンメディカルシステムズ株式会社	6	ヤンマー株式会社	4
日産自動車株式会社	6	国家公務員(一般職)	4

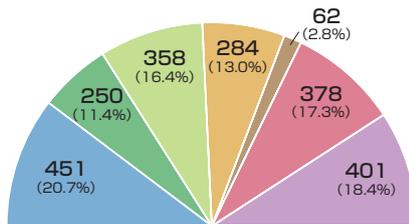
※企業団体名は2020年4月1日現在の名称を記載しています。

■ 業種別内定状況

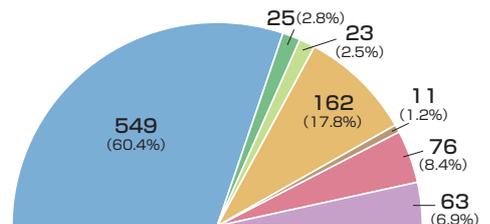
【文科系学部・研究科 男子】(人)



【文科系学部・研究科 女子】(人)

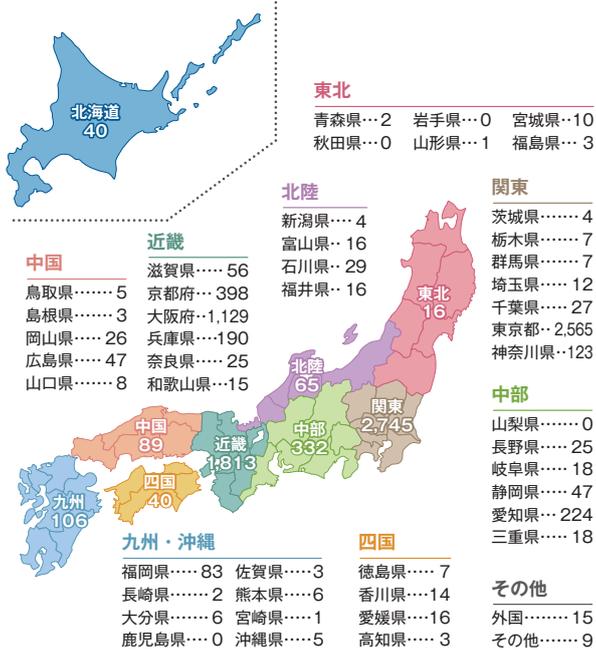


【理工系学部・研究科】(人)



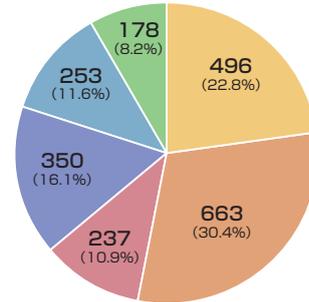
■ メーカー ■ 流通 ■ 金融 ■ マスコミ・情報通信 ■ 教育・学習支援 ■ サービス ■ 公共・その他

■ 地区別内定状況(人)

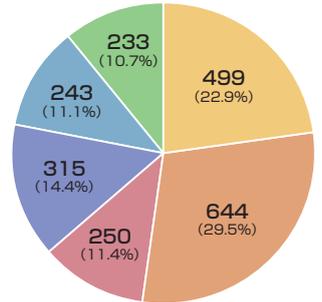


■ 従業員規模別就職状況

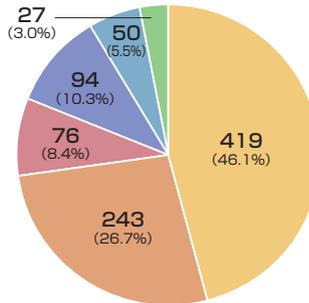
【文科学部・研究科 男子】(人)



【文科学部・研究科 女子】(人)



【理工系学部・研究科】(人)



■ 巨大企業 ■ 大企業A ■ 大企業B ■ 中企業 ■ 小企業 ■ その他

(注) 巨大企業 = 従業員5,000人以上
 大企業A = 1,000人以上
 大企業B = 500人以上
 中企業 = 100人以上
 小企業 = 100人未満

※各種学校、非営利団体、宗教法人、医療・保健、介護事業、公務員などの業種は全てその他に含まれます。

※データは2019年度確定数です。

(注1) インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を開講しています。(2019年度は新型コロナウイルスの影響により開講中止となりました。) 学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理念との統合を図り、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリア支援システム「e-career」(<https://e-career.doshisha.ac.jp/>)でその一部を紹介していますので参考してください。

参加者の感想



このインターンシップの経験は非常に有意義なものでした。今振り返ってみると、参加してよかったという思いに満ち溢れています。実際に会社でインターンシップを行うことで、自分と社会人との違いが明確にわかり、自分がまだ学生としての甘えがあると感ずることができました。また、この実習の中で自分いかに知識がなく、相手に伝える力が欠如しているかわかったことも大きな成果です。

自分がどのような職に就くことになったとしても、大切なのはその環境の中で自分が何をすべきか何ができるのか考え、実行に移していくことだと改めて気づくことができました。企業分析なども大事ですが、それよりも今の時期に自分を見つめ直し成長できる機会をインターンシップ研修を通じて得ることができたので、これからの就職活動を含め学生生活に生かしていきたいと強く思うようになりました。

初めて社会人の方と交流させていただき、同じ立場に立つことで、臆することなく自らの意見を発信し、自分の疑問や発見をとことん追求する積極性を身に付けることができました。また、それがいかに社会人にとって重要か学ぶことができました。この積極性は、就職活動や社会に出た際の、これからより多くの様々な人と関わり、未知の世界に飛び込む場面において、私の大きな武器になると思います。

自分で動くにはわからないことが多く、少しでも学ぶことができればと思い受講を決めました。事前講座では、自分の意識が足りない点などを知ることができ、自身を見つめなおすきっかけにすることができました。実習では、他大学の方と交流を持って価値観の共有ができて良かったです。

今回の体験は絶対に無駄ではないと言い切れます。様々な体験ができたこともそうですが、何よりいろいろな方と出会い、会話できたことが貴重な経験となりました。普段話さないような方と話すことで、その人の考え方に触れ、自分の価値観を広げることができ、とてもよかったです。

2019年度大学決算は、2020年5月14日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月30日開催の法人理事会で承認されました。

2019年度は、施設設備整備について、今出川校地においては、心理臨床センターの改修工事を実施しました。また、京田辺校地においては、トイレ改修工事やテニスコートの改修工事を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。また、今出川校地において、日本人学生と外国人学生の混住・共修環境を整えた教育推進に係る新学生寮（教育寮）の建設工事および早急に対応する必要がある各建物の耐震化対策の一環としての致遠館の建設工事を進めました。

研究面では、平成31年度「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～」に選定されました。「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援～」事業は、文部科学省から共同利用・共同研究拠点認定を受け活動してきた公私立大学の拠点を対象に、拠点機能強化のための支援を行い、共同利用・共同研究を通じた研究分野全体の研究水準のより一層の向上と異分野融合による新たな学問領域の創出を促進し、我が国の学術研究の発展を図る事業です。2019年度は本学赤ちゃん学研究センターを含む3拠点が採択されました。2021年度までの3年間支援を受け、国際化・ネットワーク化・人材育成の機能を高め、拠点活動の更なる強化を目指します。

さらに、チュービンゲン大学（ドイツ）にて、チュービンゲン大学との共催による Doshisha Week を開催しました。

Doshisha Weekはチュービンゲン大学構内に同志社大学EUキャンパスを開設したことに伴い、両大学の研究交流を目的に企画されました。日本、ドイツをはじめとして、アジア、ヨーロッパの10か国から約50名の研究者や専門家が集まり、5日間にわたって、各テーマによる研究発表を行いました。本学学生が宇宙生体医学工学研究プロジェクトの研究発表を行ったことやダブル・ディグリープログラムにてイギリス・シェフィールド大学に留学中の本学学生が国際紛争解決のセッションに参加するなど、学生の国際研究交流にも繋がりました。

教学面では、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」を実施しました。「同志社大学ビジョン2025」を本学が着実に進め、今後も社会で活躍する自治自立の人物を輩出し続けるためには、教育を提供する各学部および研究科の教育研究のさらなる充実が不可欠で

あり、学部・研究科の改革と新たな挑戦を大学全体として支援する教学マネジメントが求められています。「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」では、学部および研究科が提案する質の高い教育プログラムから得られた様々な教育効果を改めて分析・共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成するプログラムを新たに構築することを目的としています。

また、良心教育を継承し、次の時代を担う人物を養成するための新しい展開として同志社大学新島塾を実施しました。新島塾では、学生の意欲と能力を在学中に可能な限り伸ばし、社会の様々な分野で活躍する有為な人物を輩出することを目的とし、第1期生として17名が入塾しました。それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、リーダーシップとフォロアシップを兼ね備えた人物の養成を目指しています。2019年度は「合宿で鍛える知的基礎体力」、「読書から始まる知の探究」や「リーダーに学ぶ徳力の涵養Talk Live 2019」を実施しました。

学生支援面では、松蔭寮居室の机や椅子の整備を実施しました。また、新学生寮（教育寮）の基本計画・基本設計を進め、教育寮のコンセプトや求める寮生像、入寮資格、募集及び選考や Residential Learning Program、ドミトリー・アシスタント等についての方向性を検討しました。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金」を継続して実施しました。この募金は、ビジョンに掲げる6つの事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いするもので、2025年末まで継続的に実施する予定です。

以上の通り、2019年度も教育、研究、学生支援、施設設備整備の各方面に亘り、必要となる財政的支援を重点的かつ効果的に行いました。収入面では、学生生徒等納付金、寄付金の増収等により、予算よりも増収となる一方、支出面においては、教育研究に係る各事業での経常的経費の執行残などにより、予算と比較して減少となりました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は330億円で、事業活動収入に占める割合は約80%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は9億円で、同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金、教育研究施設等整備資金寄付金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金に加え、基金あて株式の現物寄付を受入れました。

補助金は27億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助21億円、特別補助5億円を受入れています。その他の国庫補助金では、大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備した大学へ助成される、共同利用・共同研究拠点形成事業費補助金などを受入れました。

受取利息・配当金は2億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金です。

付随事業・収益事業収入は9億円で、企業からの共同研究費・受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は13億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

繰出金は4億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は20億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は、1億円で、研究装置取得に係る取崩額です。

特定支出準備金取崩額は6億円で、用途が特定された準備金の取崩額などです。

基本金取崩額は6億円で、固定資産取得額を上回る除却分の取崩額を計上するものです。

収入の部合計は**446億円**となり、学生生徒等納付金、寄付金、付随事業・収益事業収入などの増収により予算に対して8億円の増加となりました。

支出の部

人件費は213億円で、事業活動収入に対して約51%となりました。

教育研究経費は151億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は17億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の事業活動支出は5億円で、固定資産除却に係る減価償却未償却額が主なものです。

施設関係支出は10億円で、新学生寮および致遠館の建設工事、心理臨床センターの改修工事、京田辺校地のトイレ改修工事、体育施設の更新工事などによる支出です。

設備関係支出は10億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は1億円で、現物寄付に相当する固定資産の取得額です。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

基本金組入額は17億円で、将来取得する固定資産のための第2号基本金および基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金としての第3号基本金への組入額です。

特定支出準備金繰入額は15億円で、用途特定寄付金、研究費および大規模建設事業などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は**438億円**で、ほぼ予算どおりとなりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度収支差額は7億円**の収入超過となり、学生生徒等納付金や寄付金収入、付随事業・収益事業収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して8億円改善しました。なお、累積収支差額としては**321億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すこととなります。

■ 2019年度 収支計算書 2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	32,897,360	32,973,562	△ 76,202
手数料	1,860,000	1,774,886	85,114
寄付金	566,820	945,180	△ 378,360
補助金	2,736,310	2,681,398	54,912
受取利息・配当金	196,150	218,815	△ 22,665
資産売却差額	0	30	△ 30
付随事業・収益事業収入	791,770	875,283	△ 83,513
雑収入	1,210,010	1,296,875	△ 86,865
分担金	130,210	130,210	0
繰出金	377,390	371,832	5,558
(事業活動収入合計)	(40,766,020)	(41,268,071)	(△ 502,051)
当期固定資産除却額	2,204,780	2,002,991	201,789
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	0	55,293	△ 55,293
第2号基本金取崩額	60,000	60,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(2,264,780)	(2,118,284)	(146,496)
特定支出準備金取崩額	352,710	576,827	△ 224,117
基本金取崩額	367,010	598,084	△ 231,074
[収入の部合計]	[43,750,520]	[44,561,266]	[△ 810,746]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	21,140,800	21,250,403	△ 109,603
教育研究経費	15,824,170	15,058,240	765,930
消耗品費他	11,995,740	11,230,004	765,736
減価償却額	3,828,430	3,828,236	194
管理経費	1,659,240	1,668,687	△ 9,447
消耗品費他	1,483,190	1,492,623	△ 9,433
減価償却額	176,050	176,064	△ 14
借入金等利息	110	111	△ 1
資産処分差額	405,390	420,388	△ 14,998
徴収不能額等	16,220	33,165	△ 16,945
予備費	125,000	0	125,000
繰入金	50,980	61,767	50,980
(事業活動支出合計)	(39,221,910)	(38,492,761)	(729,149)
施設関係支出	1,057,620	965,178	92,442
設備関係支出	1,122,200	1,001,665	120,535
当期固定資産受贈額	0	66,482	△ 66,482
借入金等返済支出	11,100	11,100	0
前期末未払金	73,860	73,859	1
第2号基本金組入額	1,300,000	1,300,000	0
第3号基本金組入額	5,000	386,727	△ 381,727
第4号基本金組入額	△ 15,800	△ 15,800	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(3,553,980)	(3,789,211)	(△ 235,231)
特定支出準備金繰入額	1,065,350	1,539,841	△ 474,491
[支出の部合計]	[43,841,240]	[43,821,813]	[19,427]

用語解説

収支計算書

当該会計年度における収入および支出の内容ならびに均衡の状態をより明らかにするため、事業活動収支計算書をもとに基本金組入額計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度収支差額)	(△ 90,720)	(739,453)	(-)
一般支出準備金繰入額	0	0	-
一般支出準備金取崩額	0	0	-
[繰入取崩後当年度収支差額]	[△ 90,720]	[739,453]	[-]
[前年度繰越収支差額]	[△ 32,817,160]	[△ 32,817,156]	[-]
[翌年度繰越収支差額]	[△ 32,907,880]	[△ 32,077,703]	[-]

2020年度 大学予算について

2020年度大学予算は、3月5日開催の予算委員会および大学評議会、3月28日開催の法人評議会、理事会で承認、決定されました。主な事業は以下のとおりです。

教育研究の充実

ALL DOSHISHA 教育推進プログラム実施
新島塾実施
グローバル・リソース・マネジメント (GRM) 事業
赤ちゃん学研究センターの共同利用・共同研究拠点化
Comm5.0プログラム実施
学術情報システム更新

学生生活支援の充実

ハーディーホールプロジェクト更新
喫煙防止対策

企画広報・管理運営

人事給与システム更新
機関別認証評価申請
大学入学共通テスト利用入試に関するシステム改修

建設事業

新学生寮建設工事
致遠館改築工事
京田辺キャンパストイレ改修工事
京田辺キャンパス ラグビー場・テニスコート改修工事
寒梅館・香知館空調設備設備更新工事

■ 2020年度 収支予算書

(単位:百万円)

収入の部	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金	33,176	32,897	279
手数料	1,860	1,860	0
寄付金	535	567	△ 32
補助金	2,715	2,736	△ 21
受取利息・配当金	131	196	△ 65
その他の収入	2,367	2,510	△ 143
事業活動収入合計	40,784	40,766	18
固定資産除却額等	1,156	2,205	△ 1,049
第2号基本金取崩額等	60	60	0
特定支出準備金取崩額	952	352	600
基本金取崩額	0	367	△ 367
収入の部合計	42,952	43,750	△ 798

(単位:百万円)

支出の部	予算	前年度予算	増減
人件費	21,022	21,140	△ 118
教育研究経費	15,468	15,824	△ 356
管理経費	1,965	1,659	306
その他の支出	862	599	263
事業活動支出合計	39,317	39,222	95
施設・設備関係支出等	3,076	2,265	811
第2号基本金組入額	1,300	1,300	0
第3号基本金組入額	0	5	△ 5
第4号基本金組入額	△ 6	△ 16	10
特定支出準備金繰入額	582	1,065	△ 483
支出の部合計	44,269	43,841	428

(単位:百万円)

収支差額の部	予算	前年度予算	増減
当年度収支差額	△ 1,317	△ 91	-
前年度繰越収支差額	△ 32,908	△ 32,817	-
翌年度繰越収支差額	△ 34,225	△ 32,908	-

新島襄の 志を現代へ

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY

VISION

1 学びのかたちの新展開

VISION

2 キャンパスライフの質的向上

VISION

3 創造と共同による研究力の向上

VISION

4 「志」ある人物の受入れ

VISION

5 「国際主義」の更なる深化

VISION

6 ブランド戦略の展開

公式SNS



【公式フェイスブック】

<https://www.facebook.com/doshisha.university>



【公式Twitter】

https://twitter.com/DoshishaUniv_PR



【公式YouTubeチャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCA9911f0UpwXeQUjXvLHB0w>



同志社大学
Doshisha University